



ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> (H.Lindb.) Kitag. var. <i>paludicola</i> (Makino) H.Hara	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		タデ科
選定理由	分布の範囲が限られており、生育地では都市化に伴って生育条件が悪化しつつある。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	一年草。高さ20-50cmになる。葉は細長く、ヌカボタデに比べてやや厚く、裏面に腺点がある。花序は2-5cmほど、まばらに断続して付く。	
生態的特徴	水湿地に見られる。	
分布状況	北海道・本州・九州に分布、岐阜県では県南の坂祝町と美濃加茂市に僅かに分布する。	
減少要因	都市開発に伴い、水湿地の乾燥・開発による破壊などによる。	
保全対策	水湿地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:須賀瑛文